

猿 橋  
小学校

瑛玖良

瑛玖良校は明治期における猿橋小の旧名。切磋琢磨の意が込められている。

## 新年度スタート ～「さくら」から「学習室」へ

校長 澁谷 一男

春爛漫、今年も百本を数える校庭の桜が満開となる季を迎えた。

桜の蕾が綻び始めた、去る 4 月 8 日、101 名の 1 年生を迎え、全校 646 名で平成 31 年度がスタートした。教職員は新たに 13 名が入れ替わり、総勢 60 名。今年度も全校体制で子どもたち一人一人の成長のために力を尽くして参りたい。



「瑛玖良（さくら）」は、猿橋小学校にとって非常に大きな意味をもつ言葉だ。明治 25 年に猿橋尋常小学校となるまでの 10 年間の校名であり、切磋琢磨という建学の精神が込められた言葉だからである。このような思いから、これまで、当校の特別支援学級の名称にも用いてきた。

特別支援教育は、その子にとって最もふさわしい教育の在り方を求め、一人一人の子どもの自立と自己実現を目指すことを目的とした教育だ。当校の「さくら」の子どもたちも、一人一人に応じた学習環境の中で、それぞれに力を付け、成長している。

このことについては、様々な機会を捉え、子どもたちや保護者の皆さんにもお伝えし、理解していただくよう努めてきた。しかし、一部の子どもたちや保護者の中には、特別支援教育を誤解している方がおられるようだ。特に、大人にとっては、かつての「特殊学級」のイメージが残っているためか、「通常の学級にいられない子が行く所」と誤って理解している方もいらっしゃる。

また、子どもたちの中にも、「さくら」という名称が、幼稚園・保育園の「ひまわり組」や「たんぽぽ組」のような名称を連想させるためか、高学年になってから特別支援学級へ籍を移すことに抵抗を示す子もいる。

そこで、今年度から、当校の特別支援学級の名称を「さくら」から「学習室」と変更することにした。これまでの「さくら 1 組」「さくら 2 組」を「学習室 1」「学習室 2」と呼ぶ。自分に合った環境で力を伸ばすために、文字通り「学習する部屋」というイメージをもってもらい、特別支援教育を正しく理解していただくためである。

当たり前のことだが、子どもは一人一人みんな違う。大切なのは、ちょっと人と違って、それが素晴らしいこと、素敵なことだと認め合えることだ。それは多様性を尊重できることであり、心の豊かさの証しでもある。一人一人がお互いを尊重し合い、どの子も温かな人の輪の中で成長していく、そんな学校を目指したい。

今年度もよろしくお願ひいたします。